

## 災害どう身を守る

## 防災体制を見直す

### 災害時危機管理体制 検討会議開催

若穂区長会が中心となって、災害時危機管理体制の再構築を進めている。台風19号の教訓は、自分達の命と生活は、自分達で守るという『自主防災』への自覚、あるいは、地域に根差して取り組むという、『地区防災』が不可欠であることを改めて教えてくれました。この日、支所に長野市危機管理防災課、若穂三区の区長会長、支所長等が集まって第1回目の検討会議を開催した。竹内区長会長は、地元の備えは十分とは言えない。地域からこそできる取り組みを推進、行政など公助の限界をカバーしなければ地域を被災から守れない。今回の経験と教訓を生かし、非常時において、現場で迅速な対応を行い被害軽減しなければならないとして『自主防災組織体制』、『自主防災訓練』、『一時避難場所』、『災害時の情報伝達』の各課題を協議の骨格にして、より実践的に自主防災体制を再構築するという。既に、避難場所については関係者間で打合せを開始している。



### 千曲川堤防改修促進期成同盟会総会の開催

6月26日、若穂地区千曲川堤防改修促進期成同盟会総会が支所会議室で、県議、市議をはじめ、国交省北陸地方整備局千曲川河川事務所、長野建設事務所、須坂市等の行政関係者を来賓に迎え開催。竹内促進同盟会長は、地域は今回の台風19号で、がけ崩れ、道路、河川等で甚大な被害が生じた。

現在関係行政部門の支援を得て、ほぼ復旧完了（一部仮復旧）したが引き続き危険箇所への改修に取り組む。今回の台風で、若穂千曲川流域の上流、下流部とも越水氾濫のリスクが高いことを改めて認識することになった。住民が安心して暮らせるように早期実現の取り組みを進めたいと挨拶された。

国交省千曲川河川事務所は、流域内の関係機関と『信濃川水域緊急治水対策プロジェクト』を取りまとめ、概ね5年間で流域一体となった防災、減災対策を進める方針と説明した。最後に、竹内会長より『千曲川堤防整備促進に関する要望書』を国土交通省千曲川河川事務所（長野出張所長）に手渡して総会は終了した。



### 落合橋 老朽化・渋滞で新たな橋

6月24日、若穂、更北、大豆島地区でつくる建設期成同盟会（若穂支所開催）で、長野建設事務所は落合橋を架け替える方針を明らかにした。現在の橋を使いながら上流か下流に新たな橋を架け替える工法、概略ルートの検討範囲は延長1.6km。

建設事務所は、架け替えに向けて、橋の設置に伴う水の変化（水流・水量）を場所ごとの調査を7月末までに終え、河川管理者と協議する。完成時期は未定であるが、できるだけ早期に具体的なルート案を示すという。住民の理解と協力が求められる。





## 七夕の願い

## コロナに負けない

支所入口に、5色の短冊や飾りとともに、疫病退散の願いを込めて、江戸時代に描かれた妖怪『アマビエ』のお札をつるした七夕飾りが目につきます。

七夕といえば、織姫と彦星が天の川を渡り、年に一度再会する日。短冊に祈りや、願い事を書いて星に願う日として有名です。習い事や勉強など、物事の上達を願うのが筋ですが、『良縁・良縁・良縁』、『七夕の夜君に会いたい』といった個人の願望や、『コロナ退散』、『コロナみんなで乗り越えよう』と社会を反映した願いが書かれていました。

この日、諸事で支所を訪れた加藤長野市長は『コロナに負けない!!』と力強い字体で短冊に書かれました。七夕の後、飾りを川や海に流し、天の川まで流れ着くと願い事がかなうといわれております。橋架け替えの動きが進みだした落合橋より、静かな流れに浮かばせて天の川に届けたい。



### “やまざと支援事業始動”

新型コロナウイルス感染拡大により、例年に比べて約一か月遅れとなっていました。6月下旬の温泉区を皮切りに標記事業が本格スタートしました。この事業は中山間地（保科地区）特有の課題解決のために、住民自らが行う公益的活動に対して交付金が交付されるものです。中山間地の喫緊の課題は何と言っても獣害対策です。保科地区では昨今耕作地はおろか、住宅地にまで大型獣が出没しています。保科地区においては、昨年からの電気柵設置事業が本格化しましたが、完成までには数年かかる見込みです。電気柵設置により大きな効果が出ていますが、逆に未設置箇所或いは電気柵の外縁部に被害が集中しています。野生動物が一番怖いのは人間であり、その姿を露出することを極端に嫌います。このため電気柵完成までの次善の策として、動物の隠れ場所となる山裾の荒廃地を整備し、緩衝帯化することが効果的です。雨が続いて予定通りにいかないところもありますが、電気柵未設置箇所を中心に事業をすすめていきます。



### 梅雨晴れ 彩るアジサイ

今、蓮台寺のアジサイが色鮮やかに咲き誇っている。天平時代（開基737年頃）から続く古刹九品仏さまの参道と境内に、1800株近くのアジサイが植栽（綿おこし会が中心となって植栽・維持）されています。夫婦の道祖神が在る仁王門前の両脇に、本堂までの道中約300mの両脇に、赤、青、ピンク、紫、白の花が混ざり、素晴らしいコントラストを見せている。この日、マスク姿の地元の中学生グループとTV局のクルーが、石段の手前、赤い頭巾と前掛けをかけた六地藏の前で、撮影を繰り返していた。もうしばらく、初夏の参道を楽しむことができます。

### 【蓮台寺の六地藏とアジサイ】

